

金沢市文化ホールリニューアル記念公演

新作狂言

鮎

あゆ

現代日本を代表する作家のひとり池澤夏樹の作、多方面で活躍する野村萬齋の演出・主演により平成29年12月、東京・国立能楽堂で初演され大きな話題となった新作狂言「鮎」が、作品の舞台・金沢で再演されます。同時上演は人間国宝・野村万作と野村裕基による古典狂言の名作「二人袴」。万作・萬齋・裕基父子三代の揃い踏みです。さらに狂言方の演じる舞演奏「一調一管」と、狂言の魅力を存分に堪能できるバラエティに富んだ内容となっています。この機会をどうぞお見逃しなく。

対談

池澤夏樹

野村萬齋

自身の短編小説を狂言台本へ書き直した池澤夏樹と、補綴と演出を手掛けた野村萬齋によるクロストークを行います。

小舞(和泉流)

鮎

能「白髭」の替間(能の作品中で演じられる狂言のうち特別なもの)「勸進聖」の一部を舞にしたもので、琵琶湖に現れた大鮎が勢いよく跳ね回ります。

狂言(和泉流)

二人袴

聳入りする男が父親と舅の家に挨拶に行くこととなりますが、準備できたのは一着の袴のみ。親と交代に舅の前に出てその場を凌ごうとしますが、二人一緒に出るよう求められます。狂言らしいおかしさと祝言性溢れる作品です。

一調一管

瀧流延年之舞

小松市・金沢市が舞台の能「安宅」の中で演奏される「延年之舞」「瀧流」を基に、笛と小鼓による合奏曲として平成8年に初演された曲です。

新作狂言

鮎

池澤夏樹・作
野村萬齋・演出／補綴
国立能楽堂委嘱作品

物語の舞台は手取川のほとりと金沢。鮎を捕って暮らす才助の前に小吉と名乗る若者が逃げ込んで来ます。才助はこの地で住むことを勧めますが小吉は一旗上げようと金沢へ出て、みるみる出世します。数十年後、才助はある頼みごとを胸に小吉を訪ねますが…。狂言特有の演出や技法を駆使しつつ、歳月の経過や意外な結末など、これまでの狂言にはない新たな世界観が舞台に広がります。

2019年 6月14日 金

午後7時開演(開場 午後6時30分)
金沢市文化ホール

チケット料金(全席指定)

SS席 7,000円 S席 6,000円
A席 4,000円 B席 3,000円

※当日券1,000円増 ※車いす席(B席)ございます。



座席表は
Webサイトを
ご覧ください

チケット取扱い

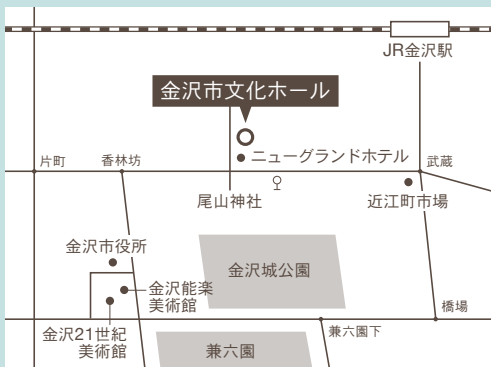
金沢市文化ホール Tel 076-223-1221
石川県立音楽堂チケットボックス Tel 076-232-8632
チケットぴあ Pコード 492-214
ローソンチケット Lコード 55749

チケット発売日

2019年3月1日[金]

お問合せ

金沢芸術創造財団 076-223-9898(平日 午前9時~午後5時)



金沢市文化ホール

〒920-0864
石川県金沢市高岡町
15番1号
TEL 076-223-1221

【アクセス】

JR金沢駅バスターミナル
東口3番・8~11番乗り場
よりバスにて「南町・尾山
神社」下車、徒歩約3分。

主催：公益財団法人 金沢芸術創造財団

特別協力：北國新聞社

後援：北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、北陸朝日放送、エフエム石川

制作：国立能楽堂

私たちは金沢芸術創造財団の芸術活動を応援しています。(五十音順)

金沢市分譲住宅建設協力会(一般社団法人石川県木造住宅協会)、

JA金沢市、株式会社橋本清文堂、ホクモウ株式会社、株式会社ポルテ金沢、

株式会社ユニークポジション、ヨシダ宣伝株式会社

金沢能楽美術館 連携特別展

狂言面・狂言装束の粋と 山科理絵が描く狂言画

2019年4月20日[土]~8月25日[日]

〈前期〉2019年4月20日[土]~6月23日[日]

—国立能楽堂所蔵の狂言面・狂言装束—

〈後期〉2019年6月29日[土]~8月25日[日]

—北陸ゆかりの狂言面・狂言装束—

新作狂言『鮎』金沢公演を記念し、メインビジュアルを描いた絵師 山科理絵による新作狂言画と、国立能楽堂や北陸ゆかりの狂言道具の名品をご紹介します。愛らしくユーモラスな狂言面や、多彩な染と軽妙洒落な文様が魅力の狂言装束とともに、山科氏の繊細な筆致による温もりと幻想溢れる狂言世界をお楽しみください。



狂言面 空吹 江戸時代
江沼神社所蔵 撮影：青木信二

新作狂言『鮎』池澤夏樹 講演会

2019年5月12日[日] 午後2時~

会場：金沢能楽美術館 3階 定員：100名 参加費：無料(ただし要観覧料金)

